

非民主政国家における中央集権化と地方エリートの抵抗： ソ連崩壊後のロシアを例に

Centralization and the Protests of Local Elites in Non-Democracies:
Evidence from Post-Soviet Russia

H31海人18

派遣先 ロシア科学アカデミーシベリア支部歴史研究所
(ロシア連邦・ノヴォシビルスク市)

期 間 2019年7月21日～2019年8月31日(42日間)

申請者 東京大学 法学政治学研究科 博士課程3年 鳥 飼 将 雅

海外における研究活動状況

研究目的

非民主政国家における大規模な政治改革の一例である中央集権化改革が、地方エリートや市民の側の抵抗で妨害される過程や条件を明らかにするために、ロシアの1地方でフィールドワークを行う。現地の図書館や書店、研究所でしか参照できない新聞資料や雑誌、公刊された研究会記録などの渉猟と、計量研究に必要な市郡長のデータの収集、および州行政府や市郡行政府の役人や議員に対してインタビューを行うことを主たる目的とする。

海外における研究活動報告

今回、ロシア連邦ノヴォシビルスク州にあるロシア科学アカデミーシベリア支部に約1ヶ月半滞在し、フィールドワークに従事した。本研究では、ロシアにおける集権化改革を題材に、非民主政国家において中央が自らの特権を大きくしようとする改革が、地方のエリートのどのような抵抗を引き起こすのかという点を明らかにすることが目的であった。その目的を達成するために、現地の図書館や書店、研究

所でしか参照できない新聞資料や雑誌、公刊された研究会記録などの渉猟と、計量研究に必要な市郡長のデータの収集、および州行政府や市郡行政府の役人や議員に対してインタビューに従事した。

1点目に関しては、ノヴォシビルスク州立図書館でさまざまな資料を収集した。Советская Сибирь, Новая Сибирь, Коммерсантъ Сибирь, Континент Сибирьといった現地で広く読まれる新聞を主に参照し、90年代から2010年代までの約30年にわたる政治状況を確認した。また、研究所や図書館に所蔵されている研究会の記録や論文集なども参照し、中央地方関係が目まぐるしく変化する当時の政治状況において問題点がどこに存在していたのか、どのように当時の政治状況は受け止められていたのかなどについても資料を収集することができた。

2点目に関しては、主に図書館に所蔵されている各市郡の新聞、および市郡行政府において得られたデータを用いて、90年代から現在までのノヴォシビルスク州内全35市郡における市郡長計117名のデータセットを完成させた。この結果、より連邦政府からの自律性が高い他の州とは異なり、ノヴォシビルスク州では州

行政府が市郡行政府を強くコントロールできていないことがわかった。このデータセットを用いてより詳細な計量研究を行う予定である。

3点目に関しては、ノヴォシビルスク市を中心に、元州副知事、市行政府の高官、市議会の委員会の委員長、半官半民の市郡行政府をまとめる団体のトップ、ジャーナリストなどに会い、ノヴォシビルスク州の政治の現在について話を伺った。また、他の市郡でも市長や副郡長などにインタビューを行い、一連の中央集権化改革の中での州行政府と市郡行政府の関係性の変化について、さまざまな興味深い事実を教えていただいた。こうした事実は、新聞などに公開されている事実よりも、より研究テーマに即したもので、研究を進めていく上で非常に有益なものとなる。

また、研究滞在の最後には、滞在で得られた事実と今後の論文の方向性に関して発表する機会をいただき、同地の研究者から多くの助言をいただいた。同地の政治に詳しい現地の同僚からの確かな助言をいただいたことは望外の幸運であり、今後の研究成果の発表に生かしていきたいと考えている。

全体としては、今回のノヴォシビルスク州の研究滞在は、非常に実りの多いものであった。帰国後すでにフィールドワークを終えている他の6地方の事例と比較を行い、理論の曖昧だった部分がかなり明確になった。9月には北海道大学附属のスラブ・ユーラシア研究センターにおいて、ノヴォシビルスク州の事例を含めた研究発表を行い、多くのコメントを得た。また、11月にはロシア東欧学会で、さらに発展させた議論を行い、多くの専門家から詳細なコメントを頂いた。将来的には、論文投稿といった形で積極的にアウトプットしていきたい。

**この派遣の研究成果等を発表した
著書、論文、報告書の書名・講演題目**

- 1) 「集権化人事のジレンマ: タンボフ州, ケメロヴォ州, ノヴォシビルスク州におけるソ連崩壊後の州権力・市郡権力間関係」中村鈴川基金奨励研究員研究会, スラブ・ユーラシア研究センター, 札幌. 2019年9月.
- 2) 「集権化の中でも息づく非公式な人的関係: 2000年代のタンボフ州, ケメロヴォ州, ノヴォシビルスク州における州・市郡行政府の関係」ロシア・東欧学会, 慶應大学, 東京. 2019年11月.